



帰国後はさまざまな団体に参加。従来のプロレスを更新するようなファイトを目指し続けている。コロナの影響で無観客試合も多いが、ピンチのときには頭のなかで応援コールが聞こえてくるという

「UTAMAROオリジナルグッズ」をセットにして1名にプレゼント!

読者 PRESENT

Tシャツの裏に UTAMAROさん サイン入り!

応募は1人1通まで、メールにて、タイトルに「UTAMAROプレゼント」を入れ、①氏名②年齢・性別③電話番号④郵便番号⑤住所を明記の上、下記までお送りください。
【宛先】minto@chuco.co.jp
【応募締切】9月18日(土)

*個人情報保護法に基づき、本プレゼント発送に使用するため、第三者に開示いたしません。発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



「いつか借りを返してやる」という強い思いを持ち続け、何度でも立ち上がるのが大切。大きな転機が訪れたのは、プロデビューから4年後の2017年。当時所属していた団体を退団し、「UTAMARO」というリングネームでアメリカ武者修行に旅立った。「海外で活躍してブレイクした武藤敬司さんなど、偉大な先輩たちが歩んできた険しい道で自分を鍛え直したいと思っただけです」

明日の保障がない日々で海外に2年間も踏み留まる

大きな転機が訪れたのは、プロデビューから4年後の2017年。当時所属していた団体を退団し、「UTAMARO」というリングネームでアメリカ武者修行に旅立った。「海外で活躍してブレイクした武藤敬司さんなど、偉大な先輩たちが歩んできた険しい道で自分を鍛え直したいと思っただけです」

渡米後の最初の受け入れ先こそ、試合を通じて知り合った外国人選手に思いを伝えて紹介してもらったが、その後のスケジュールはすべて白紙。まさに出たところ勝負の挑戦であった。「所属先のないフリーランスの立場でしたから、明日の保障などはまったくありません。良い試合をして認められ、ほかの団体から声がかからなければ、そこですべてが終わってしまふ。自分の強さを見せて、なおかつお客さんを惹きつけられるように、1回1回の試合が勝負でした」

ファイターとしての交渉や移動手段の確保も自分でやるしかなく、どれだけ必死に戦っても、前座扱いから

抜け出せない日々が続いたことも。アメリカ各州を回っただけでなく、声がかかればイギリスやメキシコにも渡り、それぞれの国によって異なるプロレスのスタイルや環境に戸惑うことも多かった。「それでもリングに上がってしまえば、周りの選手やお客さんの反応が正直なのはどこも同じ。命をかけて戦えば、みんなが熱狂的に受け入れてくれる。海外修業中は、それが自分にとって一番の励みでした」



地元でのインタビューにこたえてくれた村瀬さん。「帰ってきたときは、損斐郡のおおの温泉などに足を運んで疲れた体をケア。地元の人に自分の原点がある」と話してくれた

シンプル・イズ・ベストで説得力のある強さを見せたい

2019年の秋に帰国してからは、数々の名勝負が繰り広げられてきた歴史ある「全日本プロレス」を主戦場としながらも、あえてフリーの立場を堅持。さまざまな団体で戦う道を選び、自分の可能性をさらに広げたいという思いがある。「今もつとこだわっているのは、基本の技をいかに強くダイナミックに、きれいに見せられるか。シンプル

UTAMARO(村瀬広樹)さんに聞きました! 手軽にできるプロレスラー式トレーニング法

毎日やれとは言わないが、週に1回でも続けることで体力向上、健康維持、美容にもつながるから、ぜひ一度やってみてほしい。ただし、無理はするなよ(笑)!



猫の手腕立て伏せ

手のひらで行う普通の腕立て伏せではなく、猫の手にすることで前腕や三頭筋にも負荷がかかり、強靭な腕を手に入れることができる。プロレスラーは、50回×10セットを準備運動としてやっつけて!

ヒンズースクワット

プロレスラーの基本ともいえるトレーニング。しゃがんだときに踵を上げ、勢いではなく、ふくらはぎに力を入れて立ち上がると、膝を痛めないで済む。デビュー前は、これを毎日1000回やっていたよ(泣)



体幹運動(プランク)

ただじっとしているだけなのでラクに見えるが、これはこれでキツイ! 最初に30秒もできない人は、膝をついた状態から始めて、慣れてきたら1分、2分と増やしていく。3分もできるようになれば合格だ!

小学生のときに見た試合から理想のヒーロー像を見出す

1987(昭和62)年に生まれ、本巣市で少年時代を送ったUTAMAROこと、村瀬広樹さん。幼い頃から運動神経がよく、当時はぼつそりとした体型のサッカー少年だったという。プロレスラーになりたいと決心したのは、小学5年生のとき。父に連れられて行った岐阜産業会館で、初めて生の試合を観戦し、戦う選手たち

の姿に自身のヒーロー像を見出した。「子どもの頃から強くてカッコいいものに憧れていたのだから、まさに『これだ』という思いでした。そのときから、『自分も大きくなったらプロレスラーになるんだ』というスイッチがオンになったんです」

その夢を初めて家族に切り出したのは高校生のとき。しかし怪我を心配する両親の猛反対に合い、家族会議を繰り返したうえで、一旦は大学に進学した。そしてジムに通いながら体を鍛え、就職活動の時期にもう一度直訴。ぶれることのない村瀬さんの強い思いが、ついに両親の心を動かした。「満足するまでやってこい」と背中を押され、2010(平成22)年にカバン一つで上京を果たした。

『巻頭特集』 強く、カッコいい——子どもたちが憧れるヒーローへ

UTAMARO

約2年間におよぶ海外での武者修行から帰国し、現在はフリーの立場でさまざまな団体に挑戦している本巣市出身のプロレスラー、UTAMARO(村瀬広樹)さん。これまでの歩みや海外での貴重な経験談などと合わせ、プロレスに対しての思いや今後の意気込みを語ってもらった。



最新情報は SNS をチェック!



PROFILE

プロレスラー

UTAMARO(村瀬広樹)

1987(昭和62)年、本巣市生まれ。本巣市立真直中学校から岐阜市の富田高等学校に進学し、卒業後は名古屋学芸大学のデザイン学科に入学。卒業後に上京し、「アニマル浜口レスリング道場」の門を叩いた後、2013(平成25)年にWNC(レスリング・ニュークラシック)でプロデビュー、初勝利を飾る。その後、WRESTLE-1(レスル・ワン)への移籍を経て、海外修行に挑戦。2年後に帰国し、現在は「全日本プロレス」などさまざまな団体に活躍している。身長183cm、体重105kg。得意技は延髄斬り、バックドロップ、ムーンサルトプレスなど。リングへ登場する時は、狐の面をかぶる。そのため、リングネームには「繚乱の妖狐」「オリエンタルフォックス」などがある

【公式WEB】<https://utamaro.net/>